

記録映画

『林

竹二の授業』

この映画を見るものは、子どもたちの授業の捉え方が如何に正確で、かつ深いに驚くだろう。

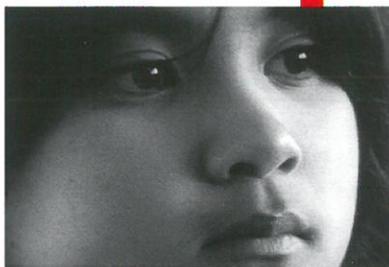
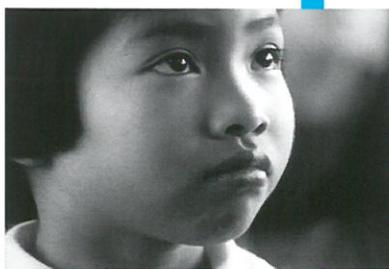
狼に育てられた少年

ビーバー

アマラとカマラ

開国

授業は、子どもたちが深いところにしまい込んでいる宝物を探り出す仕事だ……



製作 〓 グループ現代  
製作年 〓 1978年  
企画構成 〓 小泉修吉 惣川修  
三木実 四宮鉄男  
撮影 〓 黒柳満 北薮富康  
山田達郎

製作 〓 グループ現代  
製作年 〓 1977年  
企画 〓 小泉修吉  
演出 〓 四宮鉄男  
撮影 〓 黒柳満 谷口常也  
中島彰亮 堀田泰寛

子どもが深く集中するとき、  
言葉少なくなり、  
ついには言葉を失う。



記録映画シリーズ『林 竹二の授業』では1977年、1978年沖縄県那覇市立久茂知小学校を訪れた際の授業の記録映像である。3年生にビーバー、5年生にアマラとカマラ、6年生に開国の授業をおこなった。今から40年程前の貴重な授業映像である。優しい口調から発せられる林竹二の言葉は、人の好奇心を刺激し、気がつけば自然と授業に参加し、眼を輝かせて聞いている子どもたちの顔がとても印象的である。  
本作品を通じて、教育者とは、授業とは、教えるという事は何かを今一度見つめ直し林竹二を再評価してはどうだろうか。

撮影方法では、授業を丸ごと記録するために、16ミリカメラ4台で同時撮影をおこなうなど、当時としては画期的な方法を採用し、後のテレビ番組にも影響を与えた。

「成績の良し悪しを際立たせるのは、授業の質の低さである。  
私はこどもから学んで、授業に浅い授業と深い授業があると考えようになった。  
成績の優劣が際立つものが浅い授業、その消えるものが深い授業だと、  
私は勝手に決め込んでいる」

### 『林 竹二の授業 / ビーバー』 1977年/40分/モノクロ

沖縄の那覇市立久茂地小学校3年4組で行われた。  
林はこの授業の中でビーバーの題材を通して追求される人間の知の本質を探究した。  
ひたむきに授業の展開を追う子どもたちの真摯な顔に圧倒される。

### 『林 竹二の授業 / 狼に育てられた少年 アマラとカマラ』 1977年/50分/モノクロ

沖縄の那覇市立久茂地小学校5年2組で行われた。  
狼に育てられた人間の子アマラとカマラのことを教材にして、  
「人間を人間たらしめるものは何か」を追求。  
子どもたちは授業による高度な集中によって、日常的な自己を乗り越える。

### 『林 竹二の授業 / 開国』 1978年/108分/モノクロ

沖縄の那覇市立久茂地小学校6年2組で行われた。  
沖縄で「開国」の授業をする以上〈沖縄の開国〉の授業をしたい、  
そう思っていた林竹二は1週間ほど前から沖縄入りし、  
この授業のために新しい資料を集め、読み直し新たな意気込みで授業を行った。

「子どもたちは、みんな勉強をしたがっている。  
子どもたちは、「先生との授業」に飢えている」

〔日本の教育哲学者 林 竹二〕

A・E・テイラーの『ソクラテス』の翻訳を刊行。『田中正造の生涯』で1976年第30回毎日出版文化賞を受賞。その他多くの著作がある。東北大学教育学部で教育史を担当し1953年に教育学部教授。1962年東北大学より文学博士の称号を受ける。1969年宮城教育大学大学長に選出される。1977年には米国のマカレスター大学より名誉哲学博士の称号を贈られる。1972年頃から教育実践の巡礼として小・中学校で「人間について」「開国」「ソクラテス」「創世記」「田中正造」などの授業をおこない教育現場との関わりを深める。

## 記録映画シリーズ 『林 竹二の授業』 DVD 発売記念上映会

会場: 武蔵大学 江古田キャンパス 1号館1002シアター教室  
〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1 共催: 武蔵大学永田ゼミ

上映日時: 2018年3月17日(土)

11:00-13:00 / ①ビーバー、②アマラとカマラ

14:00-15:00 / ゲストトーク (武蔵大学 永田浩三教授 他)

15:00-16:50 / ③開国

アクセス:  
西武池袋線「江古田駅」より徒歩6分、「桜台駅」より徒歩8分  
都営大江戸線「新江古田駅」より徒歩7分  
西武有楽町線「桜台駅」より徒歩5分  
中野駅より関東バス江古田駅行「江古田駅」下車徒歩5分  
高円寺駅より関東バス・国際興業バス赤羽駅行「豊玉北」下車徒歩5分  
目白駅より都営バス練馬車庫行「武蔵大学前」下車すぐ

チケット価格:  
前売り券 = 1000円(税込)  
\*①~③全作品の鑑賞が可能

当日券 = 1500円(税込)  
\*①~③全作品の鑑賞が可能

お問い合わせ:  
グループ現代 Tel: 03-3341-2863(月~金11-18時) HP: <http://g-gendai.co.jp/>